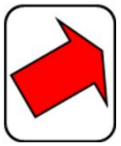
管内経済情勢報告



令　和　８　年　１　０　月

財 務 省 四 国 財 務 局

四国財務局管内経済情勢報告

	令和8年7月判断	令和8年10月判断	総括判断の要点	7月判断との比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	個人消費は、ドラッグストアが順調となっているほか、スーパーが底堅いものとなっていることから、全体としては緩やかに持ち直している。 生産活動は、化学が持ち直しているほか、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直しており、電気機械が緩やかに持ち直しつつあることから、全体としては持ち直している。 雇用情勢は、持ち直しつつある。	 (8期ぶり上方修正)

〔先行き〕
先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

項目	令和8年7月判断	令和8年10月判断	7月判断との比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
公共事業	前年度並みとなっている	前年度を下回っている	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
設備投資	8年度は前年度を下回る見込み	8年度は前年度を下回る見込み	
企業収益	8年度は増益見込み	8年度は増益見込み	

※　8年10月判断は、前回8年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。
※　次ページ以降の計数は、季節調整替え、基準改定、速報の確報化、誤計数の判明等により、過去に遡って訂正される場合があるので、利用する場合は、各発表機関の直近の公表データを確認されたい。

個人消費

<u>個人消費</u>
緩やかに持ち直している

（8期連続据え置き）

○スーパーは、飲食料品等が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。

○コンビニエンスストアは、ファーストフードや飲料に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。

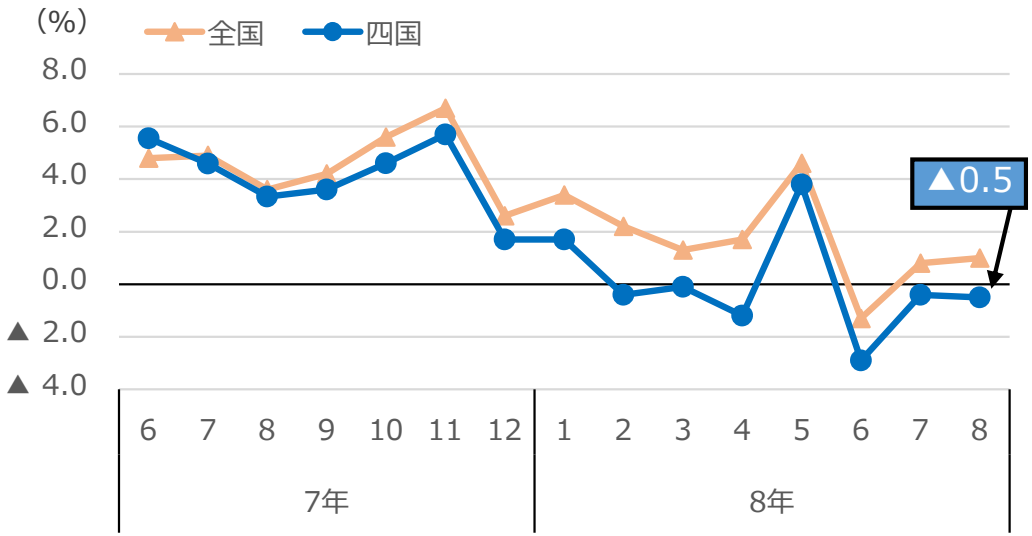
〔主なヒアリング結果〕

«スーパー»
○米は、販売単価が下がっているが、それに見合うほど販売数量は増えておらず、売上げが大幅に減少している。一方で、地元産の野菜や果物の売上げが好調となっている。

○価格上昇の影響から牛肉の販売が低調に推移しているなか、価格上昇が比較的緩やかな豚肉や鶏肉へのシフトがこのところ顕著にみられる。

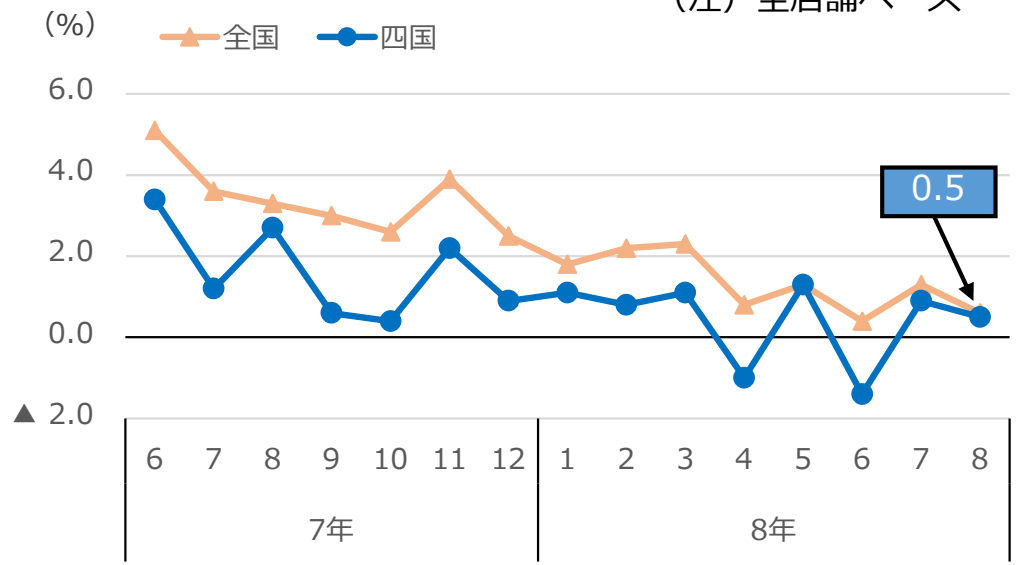
«コンビニエンスストア»
○販売促進の効果により、ファーストフードやソフトドリンクの売上げが好調。

〔スーパー販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



〔コンビニエンスストア販売額（前年同月比）〕

（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省

個人消費

○ドラッグストアは、化粧品や食料品等に動きがみられることから、全体としては順調となっている。

○家電大型専門店は、パソコンの動きが鈍いものの、エアコンに動きがみられることから、全体としては堅調となっている。

○ホームセンターは、エアコンや資材等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。

〔主なヒアリング結果〕

«ドラッグストア»
○販売促進や新商品発売の効果により、化粧品の売上げが大幅に増加している。

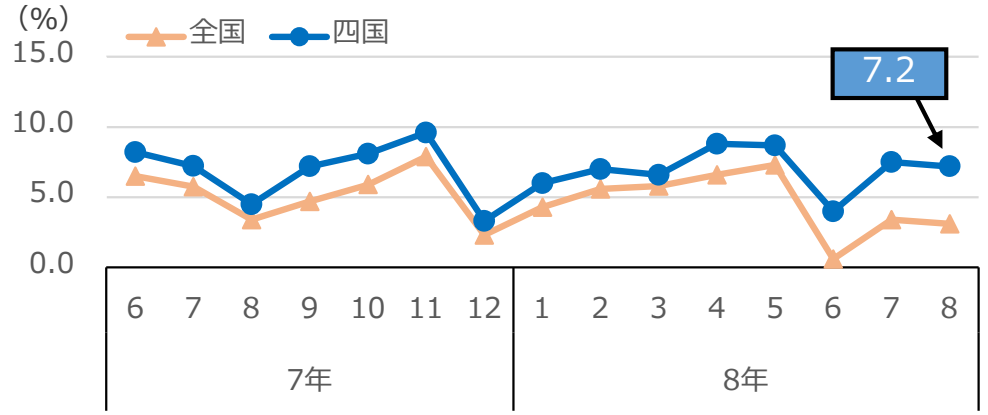
○冷凍食品は、需要の高まりから売行きが引き続き好調に推移している。

«家電大型専門店»
○エアコンは、2027年の省エネ基準引上げを控えた買い換え需要が引き続きみられることから、売上げが増加している。

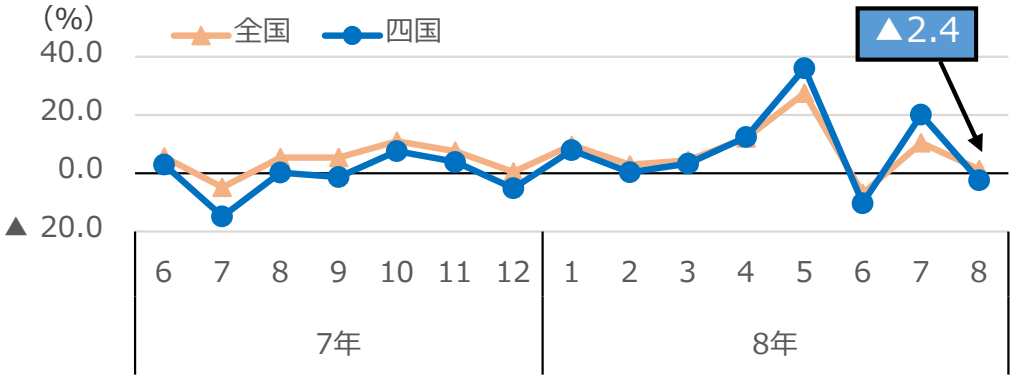
○パソコンは、昨年の一部OSのサポート終了に伴う買い換え需要の反動により、大きく売上げが減少している。

«ホームセンター»
○エアコンは、2027年の省エネ基準引上げに対する普及価格帯商品への買い換え需要で、売上げが増加している。

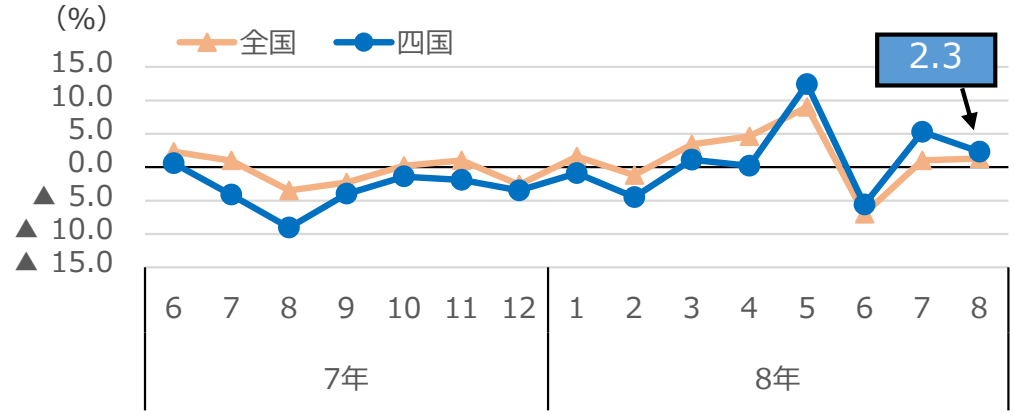
〔ドラッグストア販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



〔家電大型専門店販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



〔ホームセンター販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省

個人消費

○百貨店は、衣料品等に弱さがみられることから、全体としては弱含んでいる。

○乗用車の新車登録・届出台数は、軽乗用車は前年を下回っているものの、普通車及び小型車は前年を上回っていることから、全体としては前年を上回っている。

○観光は、国内観光客が増加していることなどから、緩やかに回復している。

○旅行は、国内旅行は緩やかに持ち直しつつあり、海外旅行は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

〔主なヒアリング結果〕

«百貨店»
○梅雨明けが前年より遅かったことなどにより、客数に影響があった。

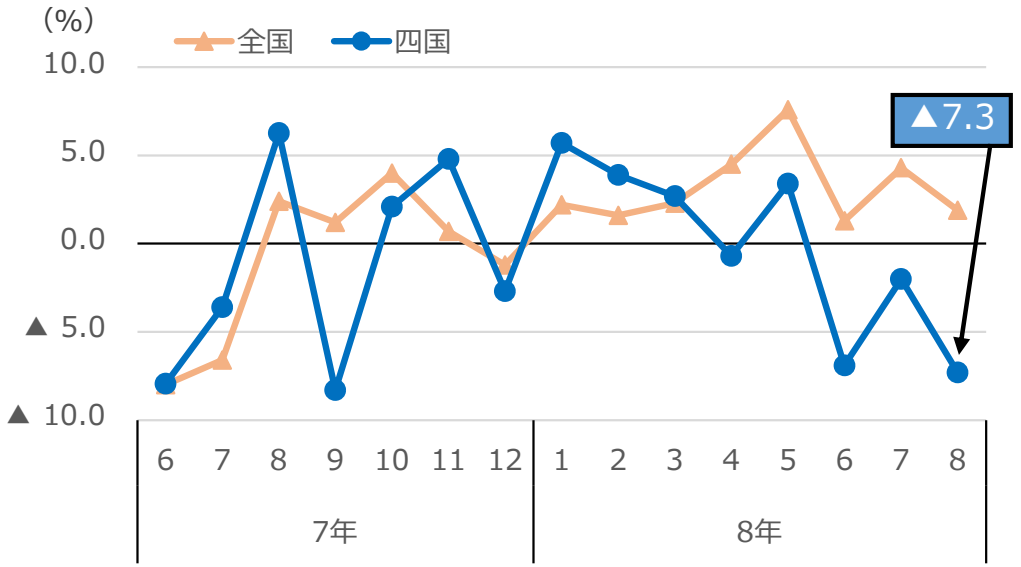
○夏場の猛暑により、秋物衣料の動きが鈍かった。

«乗用車»
○コンパクトカー人気や自動車税環境性能割廃止を待った層の登録・納車が続いている。

«観光»
○お盆期間は長期休暇を取りやすい曜日並びで、前半から予想を超える客入りだった。

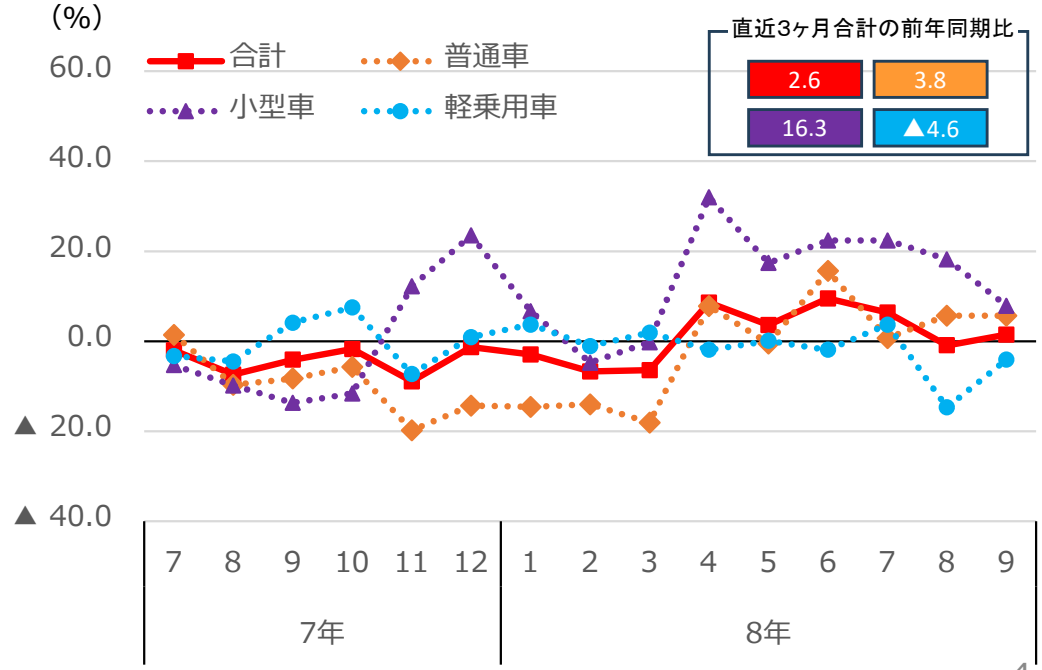
«旅行»
○燃油サーチャージ引き下げ等プラス材料があるものの、為替の影響による費用の高騰や物価高による節約志向の高まりから国内旅行にシフトしつつある。

〔百貨店販売額（前年同月比）〕　（注）全店舗ベース



【出所】経済産業省

〔四国の乗用車新車登録・届出台数（前年同月比）〕



【出所】（一社）日本自動車販売協会連合会、（一社）全国軽自動車協会連合会のデータから算出

生産活動

<u>生産活動</u>
持ち直している

（2期ぶり上方修正）

○化学は、国内外の堅調な需要のもと、受注が増加していることから、持ち直している。

○汎用・生産用機械は、国内外の堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。

○電気機械は、データセンター向けの需要の増加などから、緩やかに持ち直しつつある。

○食料品は、一部に弱さがみられることから、横ばいの状況にある。

〔主なヒアリング結果〕

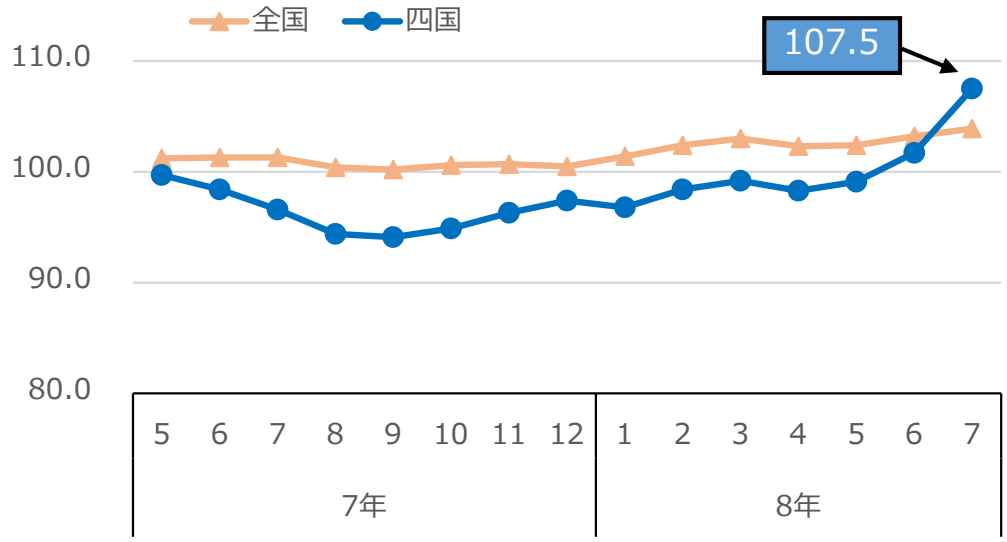
«化学»
○工業向け薬品について、国際的な価格競争力の高まりを背景に、生産量が増加。

«汎用・生産用機械»
○設備投資向けの需要が好調なことから、高操業による生産が続いている。

«電気機械»
○データセンター向けを中心としたAI関連需要の拡大を背景に、生産量が増加。

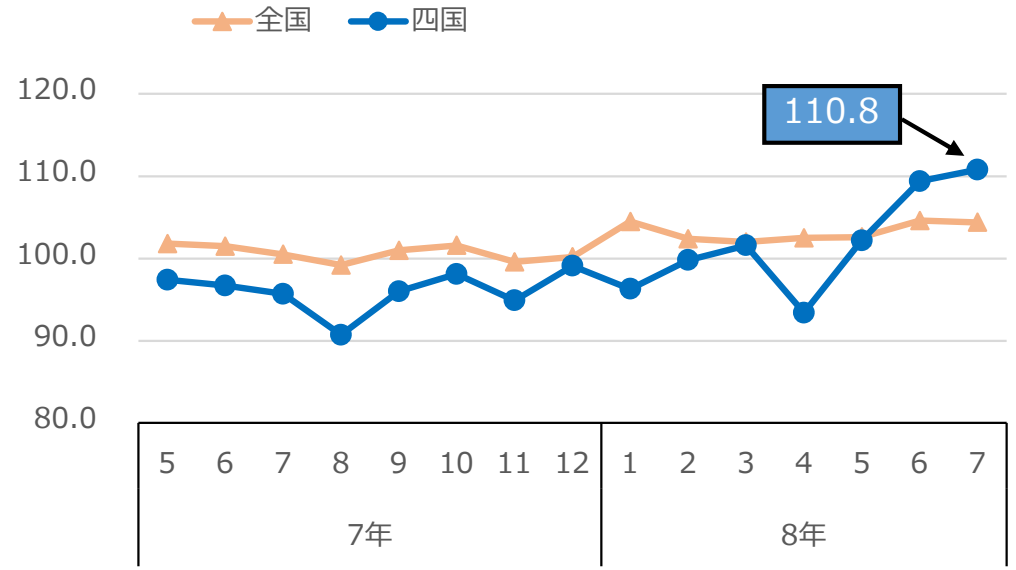
«食料品»
○米の代替品としてニーズがあった製品の需要が減少。

〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、3か月移動平均）〕



（令和2年＝100）　【出所】経済産業省、四国経済産業局の公表データから算出

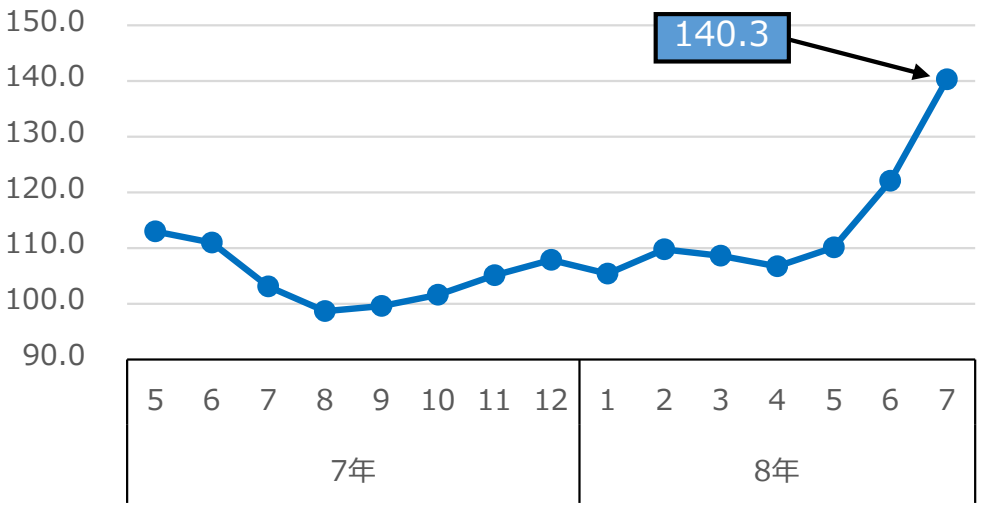
〔鉱工業生産指数（季節調整済指数、単月）〕



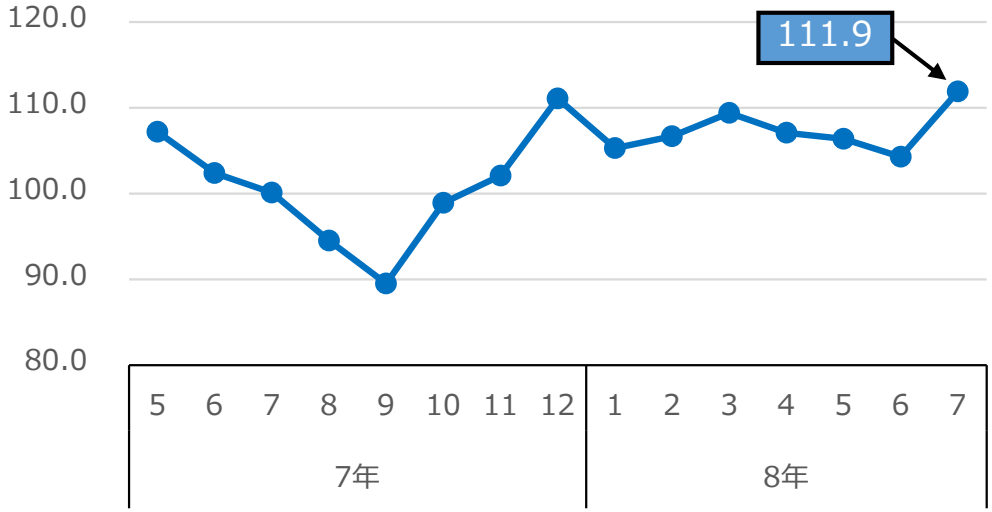
（令和2年＝100）　【出所】経済産業省、四国経済産業局

生産活動

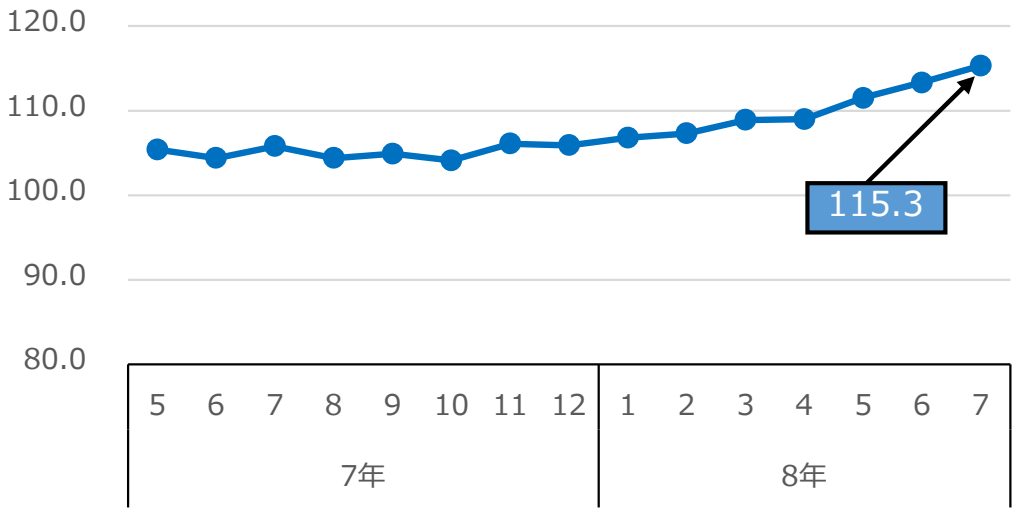
〔化学・石油石炭〕



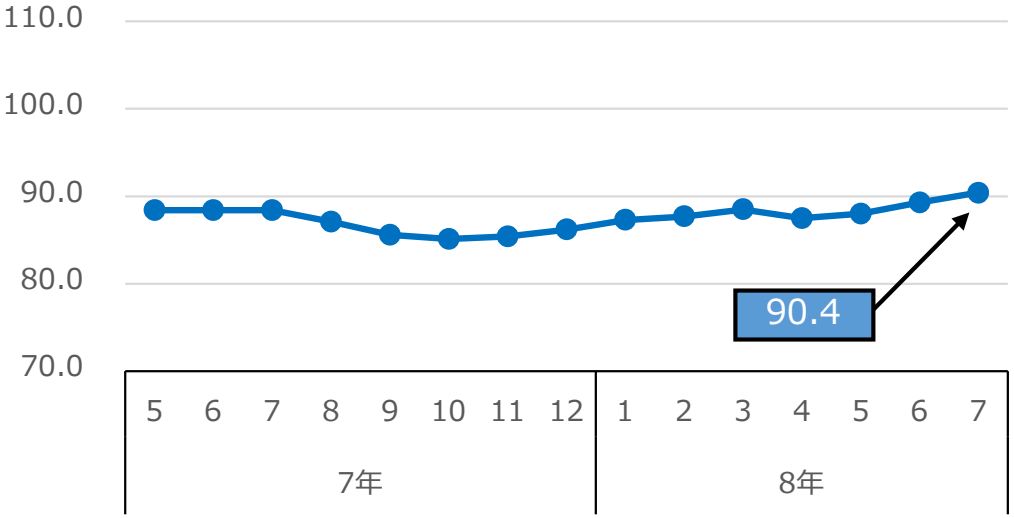
〔汎用・生産用機械〕



〔電気機械〕



〔食料品〕



（季節調整済指数、3か月移動平均、令和2年=100）　【出所】四国経済産業局の公表データから算出

雇用情勢

雇用情勢
持ち直しつつある

（据え置き）

○有効求人倍率は横ばいとなっている。

○新規求人数は前年を上回っている。

○法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、9月末は全産業で32.3%ポイントと「不足気味」超となっており、企業の人手不足感は続いている。

〔主なヒアリング結果〕

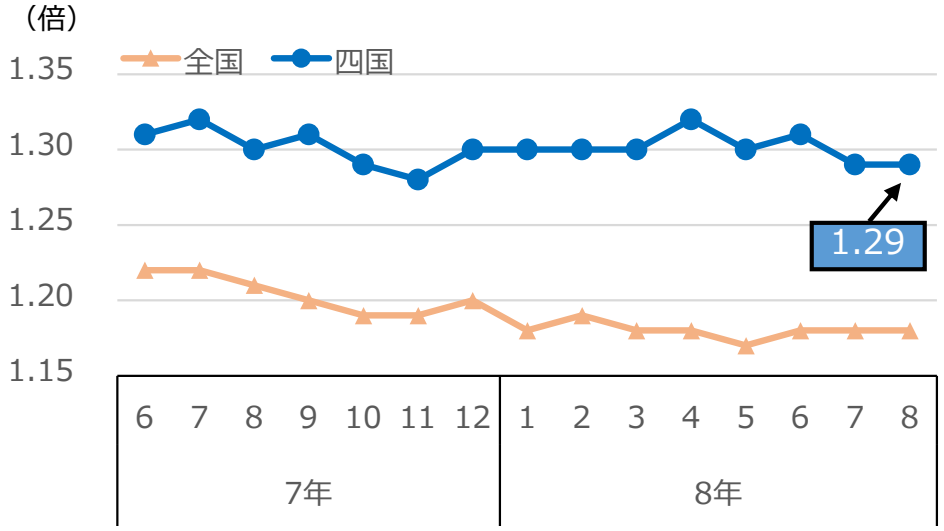
«労働局»
○企業が求める人材と求職者との間にミスマッチがみられ、求職者の就職決定が進まず、有効求職者数の増加につながっている。

○卸売・小売業を中心に人手不足感が継続しており、企業による大規模な求人募集など積極的な動きがみられる。

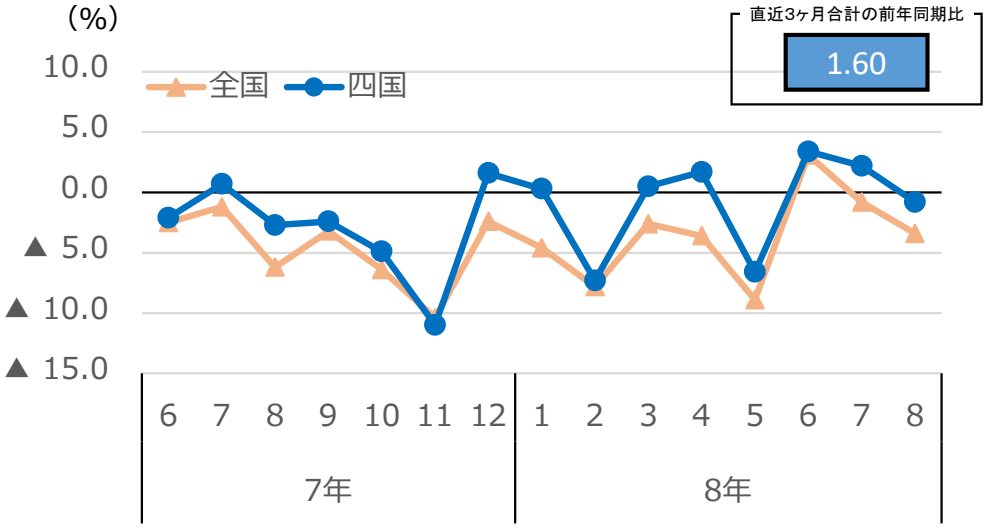
«鉄鋼»
○製造現場で必要となる資格の保有者が不足しており、生産ラインの稼働率の引下げなどの対応を実施している。

«運輸»
○運転手が不足している。ハローワークや民間求人サイトで募集をかけているが、応募があっても当社の希望する人材とマッチしない。

〔有効求人倍率（季節調整値）〕



〔新規求人数（原数値、前年同月比）〕



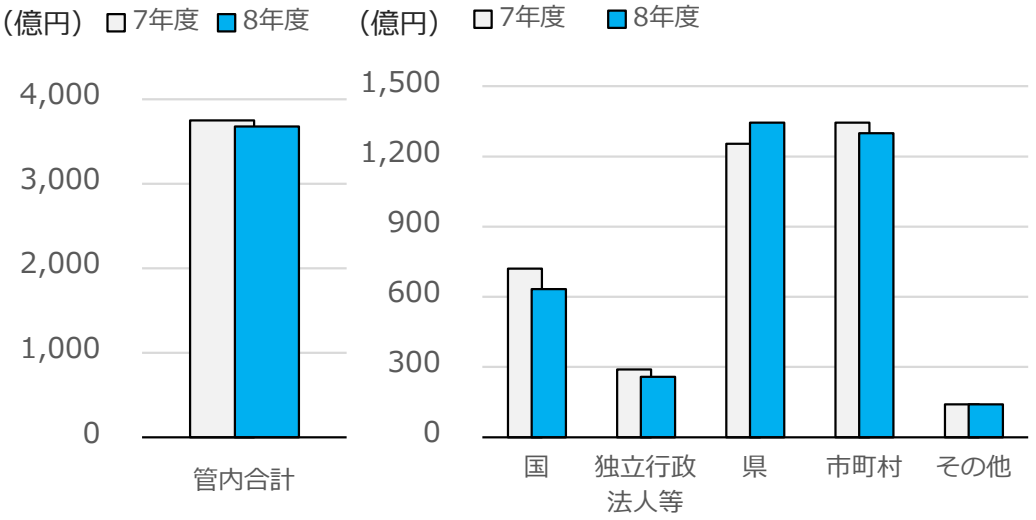
【出所】厚生労働省の公表データから算出

公共事業・住宅建設

公共事業
前年度を下回っている

○前払金保証請負金額でみると、県は前年度を上回っているものの、国、独立行政法人等及び市町村は前年度を下回っていることから、全体としては前年度を下回っている。

〔四国の公共工事前払金保証請負金額（9月累計額）〕



【出所】西日本建設業保証（株）等

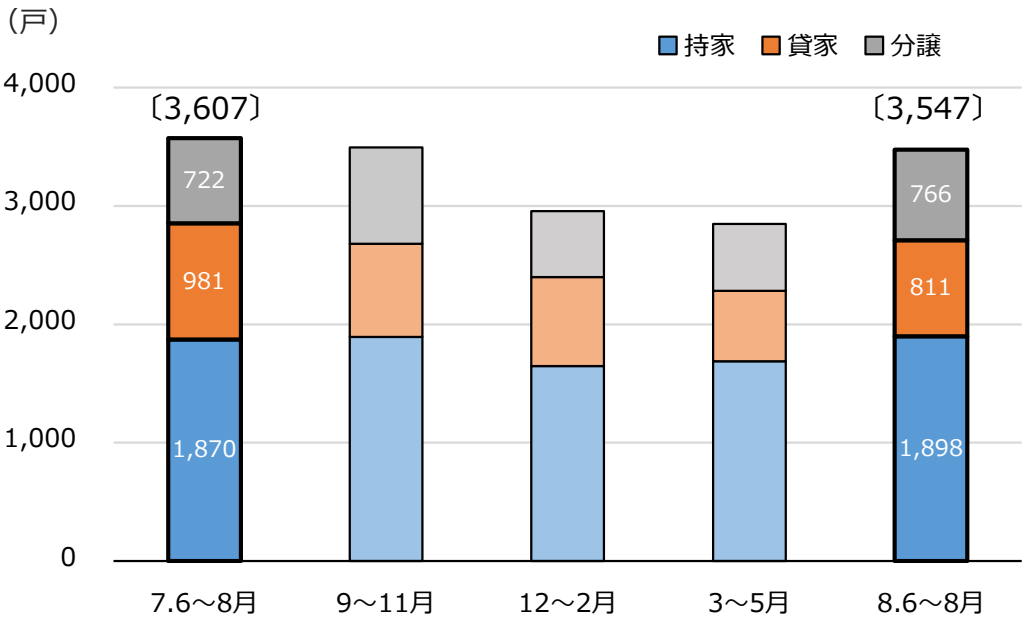
住宅建設
前年を下回っている

○新設住宅着工戸数でみると、持家及び分譲は前年を上回っているものの、貸家は前年を下回っていることから、全体としては前年を下回っている。

〔主なヒアリング結果〕

○注文住宅では、金利や物価の更なる上昇を予想し、今まで様子見していた層が購入に踏み切る動きがあった。

〔四国の新設住宅着工戸数〕



※〔 〕は合計（給与住宅を含む）　【出所】国土交通省の公表データから算出

設備投資・企業収益・企業の景況感

設備投資
8年度は前年度を下回る見込み

○8年度の「設備投資」は、非製造業で前年度を上回る見込みとなっているものの、製造業で前年度を下回る見込みとなっており、全体としては前年度を下回る見込みとなっている。

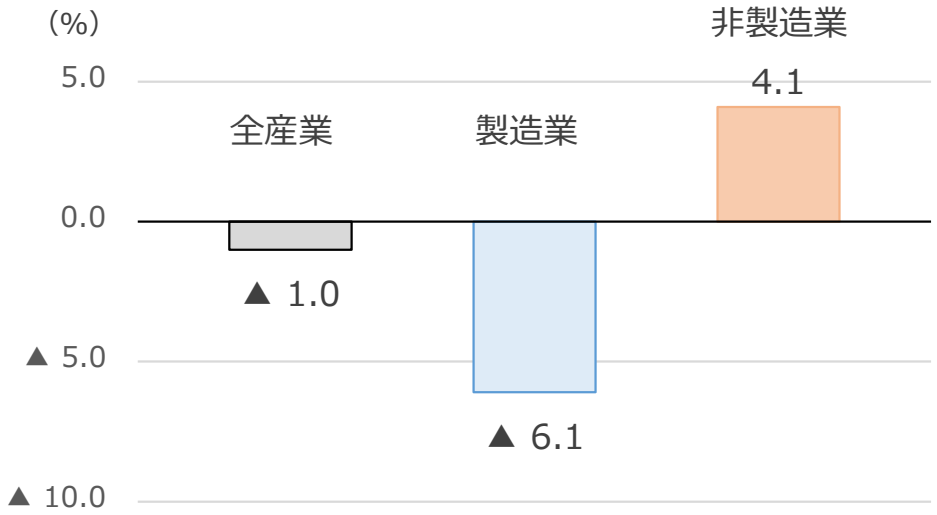
企業収益
8年度は増益見込み

○8年度の「経常利益」は、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で増益見込みとなっており、全体としては増益見込みとなっている。

企業の景況感
「下降」超

○8年7～9月期は、製造業及び非製造業で「下降」超となっており、全体としても「下降」超となっている。

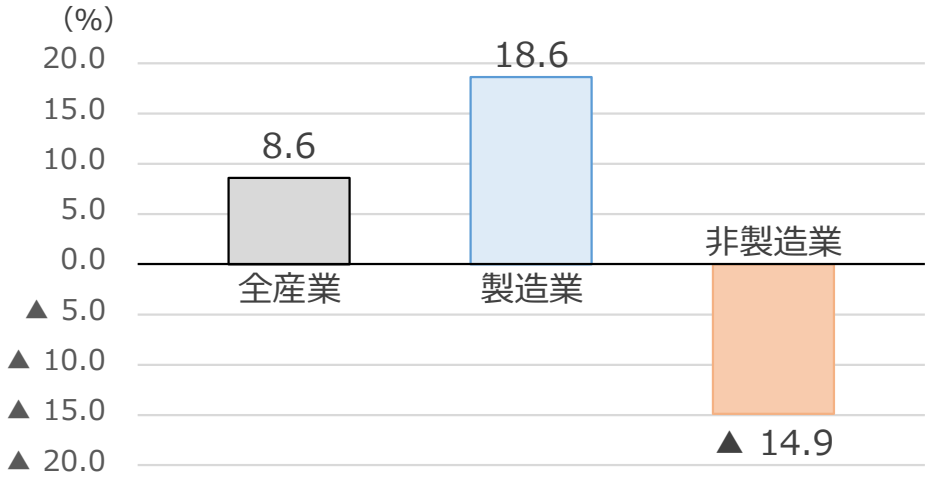
〔四国の設備投資（前年度比）〕



※8年7～9月期調査の結果

※ソフトウェア含む、土地除く

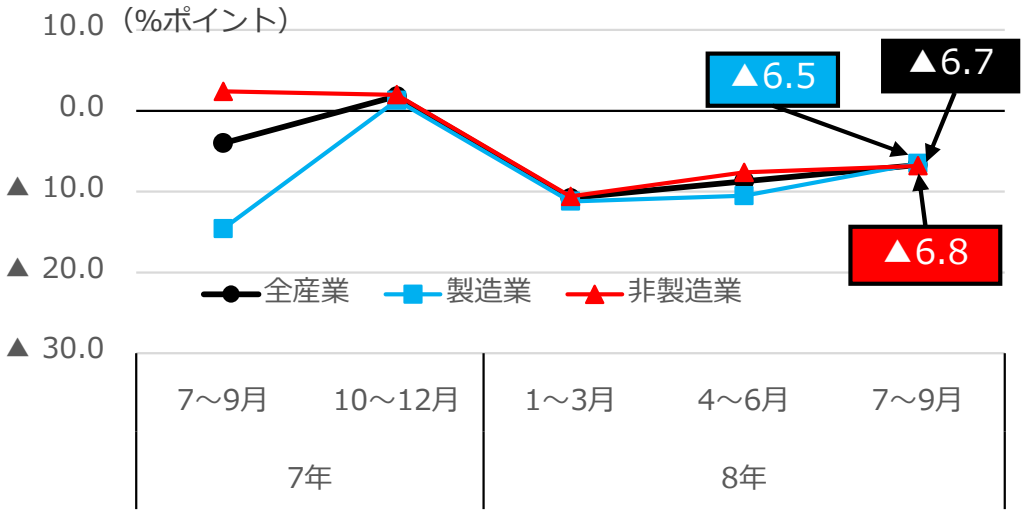
〔四国の経常利益（前年度比）〕



※8年7～9月期調査の結果

※ 「電気・ガス・水道」、「金融、保険」を除く管内に本店が所在する企業

〔四国の企業の景況判断BSI〕

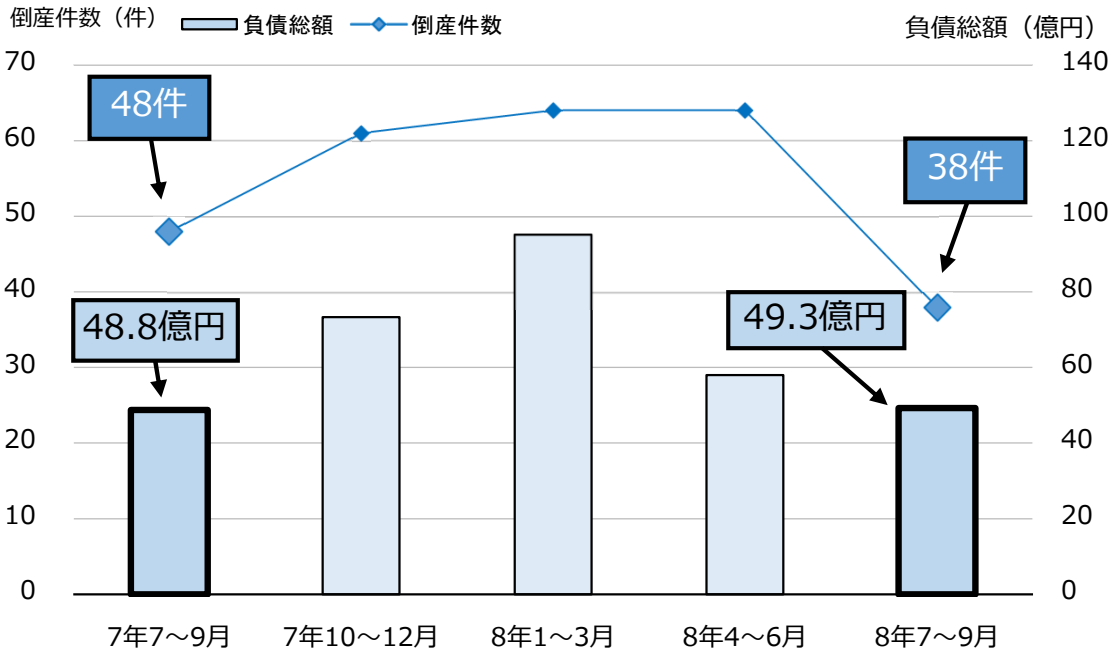


【出所】四国財務局（法人企業景気予測調査）

企業倒産・消費者物価（参考）

企業倒産
件数は前年を下回っているものの、負債総額は前年を上回っている

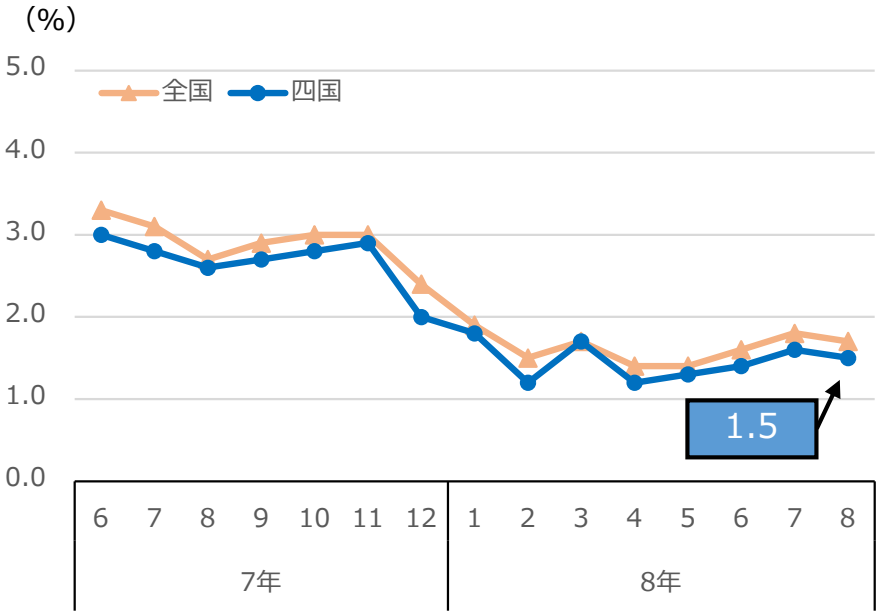
〔四国の倒産件数・負債総額（負債額1,000万円以上）〕



【出所】東京商工リサーチの公表データから算出

消費者物価
前年を上回っている

〔消費者物価指数（生鮮食品を除く総合、前年同月比）〕



（2025年＝100） 【出所】総務省